

2004年3月28日(日曜日)

「プライド福井」の創造を目指して 平成16年度当初予算成立する

3月17日閉会した第337回定例県議会で、平成16年度当初予算が可決、成立しました。

予算の規模は、一般、特別、企業の三会計の合計で、総額5,696億8,500余万円。昨年度の当初予算は、知事選挙を控えた骨格予算でしたので、当初予算と政策的な経費などを盛り込んだ6月補正予算の合計(6月現計予算額)と比べると、4%の減少になります。

今回の当初予算は、西川知事としてはじめての本格的な通年予算です。

今回は、国の※「三位一体の改革」の影響により地方交付税が220億円余り削減されるなど厳しい財政状況の中での編成になりましたが、健全財政の確保に努めるとともに、知事のマニフェスト「福井元気宣言」に掲げた4つのビジョンと「挑戦ふくい—福井県経済社会活性化プラン—」などの実現に向けた編成を行いました。

特に、県民の皆さんが「ふるさとに誇りを持てる」地域づくりを進め、福井の素晴らしさを全国に誇れる「プライド福井」の創造を目指して、全国に誇れる事業を積極的に予算化するとともに、目標を明確にし、県民本位の仕事が進められるよう、政策議論など新たな手法を取り入れながら、選択と集中により施策の予算化を行いました。

※「三位一体の改革」…地方分権を進めるため、「国庫補助負担金の削減」「国から地方への税源移譲」および「地方交付税の見直し」を一体的に行うもの

行財政構造改革プログラム

県では、この2月に、「福井元気宣言」実現のための200億円の財源確保と推進体制の整備、国から自立した財政構造の確立、さらには「管理」から経営へといった視点で職員の意識や仕事の進め方の改革を推進するため、平成18年度までを推進期間とする「行財政構造改革プログラム」を策定しました。

今回の当初予算は、このプログラムを踏まえ編成しています。

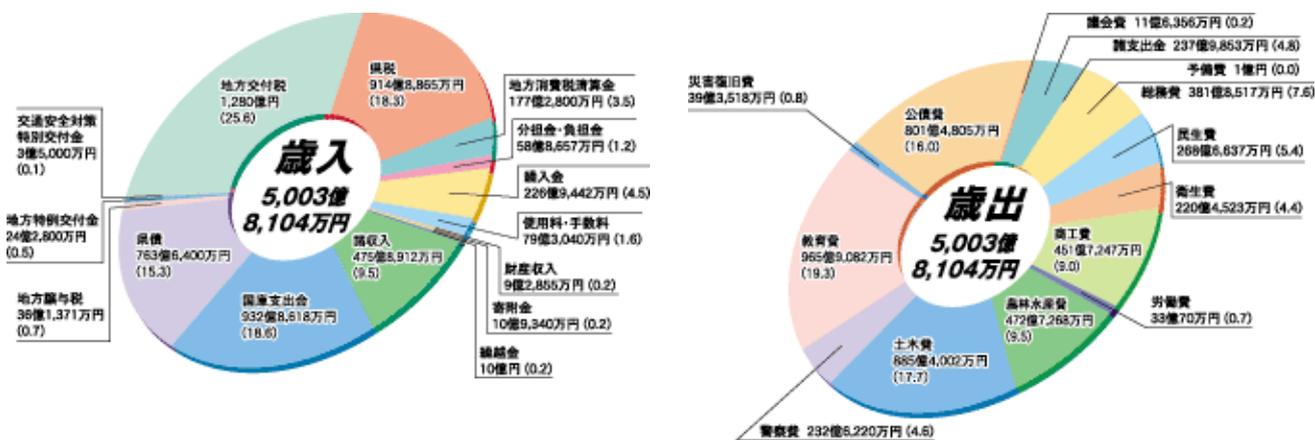
平成16年度当初予算
総額5,696億円

平成16年度当初予算の規模

会計区分	16年度当初予算額	対15年度6月現計予算額比(%)
一般会計	5,003億8,104万円	97.1
特別会計	275億 741万5千円	105.0
企業会計	417億9,730万円	80.1
計	5,696億8,575万5千円	96.0

一般会計予算構成

【1万円未満切り捨てのため、各項目の合計は総額とは一致しません。()内は%】



※図をクリックすると拡大表示されます。

新たな手法による予算編成

政策議論の実施

民間の経営手法を行政に導入する「ニュー・パブリック・マネジメント」の考え方に立ち、成果主義により予算、人などの限られた経営資源を重点配分する「福井県政策推進マネジメントシステム」に基づき予算を編成しました。

具体的には、県政の重要課題に係わる予算については、これまでの各部局の積み上げではなく、知事が各部局長と「県民にどのような成果をもたらすか」などの点について徹底して意見交換を行う「政策議論」を実施し、成果主義による評価を行いました。これは、全国初の取組みです。

公共事業の1件審査

公共事業関係については、従来は、シーリングによる総枠の調整に重点を置いてきましたが、今回、成果主義に基づき※県単独事業について1件ごとに審査を行いました。来年度からは、全国に先駆け、国の補助が入る公共事業についても、1件審査に取り組みます。

※県単独事業：国庫補助を受けないで地方公共団体が単独で行う事業

県民とのパートナーシップ

このたび作成した「NPO(民間非営利団体)との協働指針」に基づき、予算執行において、NPO法人、ボランティアをはじめとする民間団体や地域コミュニティとの協働を進め、民間の活力や県民の創意工夫など地域の活力を行政に取り入れるようにしました。県民とのパートナーシップに基づく新しい行政の確立を目指します。



河川清掃活動などにおけるNPOとの協働

電源三法交付金の活用

本県の貴重な財源である「電源三法交付金」は、昨年10月から福祉などのソフト事業も対象になるなど大幅な用途の弾力化が図られたことから、今回新たに子育て情報誌の作成、病児デイケアの充実、県立高校の改築・リフレッシュ工事など県民の皆さんの暮らしに密着した事業に活用することにしました。

政策形成過程からの県民参加

県民に身近な県政を進めるため、「予算編成過程への県民参加」に寄せられたご意見・ご提言や、「福井女性会議」、「座ぶとん集会」などを通じてお聞きしたご意見などを事業に活かすよう努めました。



福井女性会議における提言

「元気な福井」の実現のために

平成16年度当初予算では、経済活性化、県民生活の安全・安心、きめこまかな福祉、教育の充実、ふくいブランドの創造の5つを重点課題として挙げて予算編成を進めるとともに、「福井元気宣言」を実現するための「新世紀政策推進事業」として210事業、予算額で約179億円、一般財源ベースで約58億円の事業を予算化しました。

中でも、経済活性化については、昨年末に経済社会活性化戦略会議の提言を受けて策定した「挑戦ふくい」を受け、80事業、一般財源約19億円と全体のおおよそ三分の一を占めており、最も重点化しました。

また、今回の予算編成で、「福井元気宣言」に掲げる施策で、予算で対応すべきものについては、すべて着手しました。

5つの重点課題

経済活性化

昨年末、策定した「挑戦ふくい」の具体化に取り組むとともに、就職支援に力を入れました。

（就職支援）

若者を対象とし、職業教育から就職支援、就業定着まで一貫した支援を行う支援センター（通称「ジョブカフェ」）を設置し、国の公共職業安定所と連携して若者の就職を支援します。



本県が誘致した外資系損害保険会社のコールセンター

（産力強化）

これまでは統一を欠きバラバラに進んでいた技術開発について、産学官が同じ方向で一体となり進んでいくため、県内の企業、大学、行政から人材を集め力を結集する「福井県産力戦略本部」を設置します。

また、繊維、金属加工など本県が比較優位を有する分野での先端的な技術開発や、多くの中小企業が参加する幅広い分野での産学官共同研究を進めるため、大胆に資金を投入します。

さらに、県内での新規創業を強力に支援するために、創業時および創業一年以上経過した企業に対する思い切った融資制度を作り、さらに（財）福井県産業支援センターの経営支援制度を組み合わせ、全国に例がない大規模な創業支援制度を創設します。

NPO法人やボランティア団体が、地域の課題をビジネスとして解決しようとする取組み（コミュニティ・ビジネス）を支援するため、セミナーの開催、塾の開講、専門家による指導を行うとともに、新たな融資制度を創設し、地域経済の活性化を促進します。

（人づくり）

本県の次世代の地域経済を担う人材を育成するため、平成18年度を目標に県立大学の大学院にビジネススクールを開設する予定ですが、平成16年度はこれに先立ち、社会人などを対象とした半年間の短期課程のビジネススクールと、年間7回程度のプレビジネススクールを開講します。

（販路開拓）

中国を中心とする東アジアは本県の企業にとって最も有望な市場であり、これらの地域で販路開拓にチャレンジする企業を積極的に支援します。上海事務所を現地市場に精通したコーディネーターを置き、販路開拓のための支援体制を強化します。これに伴って、事業の「選択と集中」の観点から、ニューヨーク事務所、ミラノ事務所を平成15年度をもって廃止します。

(企業誘致)

企業誘致は、雇用拡大や技術向上にもつながり、県外企業のチャレンジ精神を移入する観点からも重要です。進出企業に対する全国有数の支援制度を整備し、年間延べ500社を目標に企業を訪問するなど積極的に企業誘致に取り組めます。

(農林水産業)

「夢のある農林水産業」の実現を目指し、法人化の促進や旧村規模の範囲をカバーする広域的な営農体制を支援します。

また、市場のニーズを踏まえながら、収益性の高い園芸品目の育成、県産農林水産物のブランドの確立など企業的な発想による高付加価値型農業への転換や、漁業者が創意工夫で行う商品開発や販路開拓など「儲かる漁業」への取り組みを支援します。

また、県民の皆さんが強力な対策を望んでいたイノシシやシカなどの鳥獣被害についても、防除や駆除を県下一斉に行う総合的な対策を実施します。

県民生活の 安全・安心

平成15年度に引き続き、治安の回復に取り組むとともに、有事への対応も念頭に置いて予算を編成しました。

(有事への対応)

現在、国会で審議中の国民保護法制の成立に合わせ、県民の避難や救援護、武力攻撃災害への対処についての計画を全国に先駆けて策定します。



地域住民によるパトロール活動

(治安の回復)

昨年策定した「福井治安回復プログラム」に基づく取り組みを強化した結果、刑法犯総数は9年ぶりに減少に転じました。治安を確かな回復軌道に乗せるため、地域に密着した犯罪情報の提供、自主防犯活動の一層の活性化など、住民、行政、警察が一体となった地域の犯罪抑止力の向上を図るとともに、車上ねらいや自販機荒らしなどの街頭犯罪への対策を強化します。

また、今回成立した「福井県安全で安心なまちづくりの推進に関する条例」に基づき、各市町村に「市町村安全安心センター」を指定し、防犯教室の開催や防犯隊などを対象とした研修を行います。

また、安心して明るい通学路を確保するため、歩道の新設、段差解消や交差点などにおける照明灯、歩行者用照明灯の整備を行います。

きめこまかな 福祉

福祉の分野には、行政では気づかない点や対応が十分でない点もあるため、NPO法人などの民間団体と協働する事業を積極的に予算化し、住民が満足する福祉サービスの提供や住民が互いに助け合う仕組みづくりに取り組みました。



きめこまかな子育て支援

(きめこまかな子育て支援)

母親が求めている情報を盛り込んだ「母親手作り子育て情報誌」を作成し、家庭に配布することにより子育て不安の解消に努めるほか、病気、冠婚葬祭などで一時的に子育てに対する支援が必要になった場合、保育サービス、家

事代行サービスなどNPOなどが行うきめこまかな子育てサービスを支援します。

(障害者施策の充実)

知的障害者グループホームの安全対策設備の整備促進や横断歩道への誘導点字ブロックの設置など障害者が安心して暮らせる住環境、社会環境の整備を進めます。

また、障害児(者)を持つ親の負担を軽減する観点から、夏休み等長期休暇中に障害児(者)の介護を行う民間団体を支援します。

(NPO等との協働による地域福祉の充実)

高齢者対策では、特別養護老人ホームの待機者ゼロを目指し、在宅、施設両方での高齢者介護を充実させるとともに、質の高いサービスが提供されるよう介護サービスの第三者評価の導入に向けた取り組みを開始します。

また、高齢者が慣れ親しんだ地域社会での生活を継続していけるよう、ボランティアやNPO法人などによるきめこまかな介護活動の促進に取り組みます。

嶺南地域で整備を検討してきた児童館については、地元の考え方を十分に反映した整備と運営を進めるという観点から、整備は県、管理・運営は地元大飯町が行うという新しい方式により、16年度から「子ども家族館(仮称)」として準備を進めます。

教育の充実

「未来を託す人づくり」のため、30人学級の編成に向けた取り組みを開始しました。

また、高校生の学力の低下が懸念されていることを踏まえ、学力向上のための予算を充実しました。



ティーム・ティーチングなど教育環境を充実

(高校生の学力向上)

学力を向上させるため、学校や家庭等での学習時間の確保、各校独自の取組みによる生徒の学習意欲の喚起、教員の指導力向上などに取組みます。

また、中高一貫教育を進め、中高の計画的・継続的な指導を促進します。

(30人学級編成の導入等)

平成19年度までに基礎学力の習得に重要な時期である小学六年生から中学三年生までに30人学級あるいは30人台学級を導入します。

また、小学一、二年については、学校生活に馴染むための手助けが必要であるという観点から、生活指導のためのボランティアの導入を推進します。小学校三、四、五年生については、一クラスに二人の教員を配置するティーム・ティーチングや教科ごとの少人数指導を強化します。こうした弾力的な方法は、全国的にもユニークな取組みです。

(私学振興)

本県の高校生の約四分の一が通う私立高等学校に対しては、その教育環境の整備を図るため、これまでも人件費や施設の維持管理経費などの経費に対して助成してきましたが、長期的な生徒数減少などにより、厳しい経営を余儀なくされており、教育条件の悪化や保護者の経済的負担の増加が懸念されています。

学校ごとの特色ある教育や開かれた学校づくりの取組みに対し助成を行い、各学校の魅力アップを図っていきます。

(青少年の健全育成)

非行の増加が大きな問題になっており、青少年の健全育成や非行防止対策を一層充実する必要があることから、「福井県青少年育成アクションプラン」を策定しました。これに基づき、国の施策と連携しつつ、家庭教育の充実や、地域における青少年の居場所づくり、地域コミュニティへの参加など地域の教育力の向上に努めていきます。

(ごみの減量化・リサイクル)

「飽食の時代」といわれる今日、日常生活あるいは外食での食べ残しによる生ごみの増加が社会問題になっています。生ごみの減量化を図るため、飲食業界との意見交換、意識啓発など、食べ残しを減らす社会づくりに向けた運動を展開します。

(県立大学の充実)

県立大学の地域貢献を一層推進する観点から、従来の一律的な教員研究費のあり方を一部見直し、県の行政施策や県のニーズを反映した特色ある研究について、県民などで構成する委員会の意見を踏まえて奨励研究費を交付するという制度を全国で初めて設けます。

また、大学間の競争が激化する中、質の高い授業を提供するため、学生、教員の参加によって授業の改善を行い、大学の教育力の向上に取り組みます。

**ふくいブランドの
創造**

県民と行政が協働し、魅力ある「ふくいブランド」づくりに取り組む事業を予算化しました。

福井の魅力を強くアピールしていくため、福井が持つ「良きもの、優れたもの」を磨き、全国との競争の中で絶えず情報発信し、県民がふるさと福井に自信と誇りを持つ「ふくいブランド」の醸成に努めます。

地域のグループなどが、県内のさまざま地域資源を組み合わせ、ストーリー化して付加価値を高め、ビジネスとして継続的な取り組みを行う地域ブランドづくり活動を支援します。

また、県外においてイメージアップ活動を行う「ふくいブランド大使」を募集し、県民一人ひとりがアマチュアのセールスマンになっていただく県民活動を展開します。

全国トップレベルの「健康・長寿県」である要因の調査分析を行い、その成果を県内外に発信します。

今年は、国連が「国際コメ年」に位置付けています。本県が育成したコシヒカリは、作付面積日本一を誇る日本の代表品種であり、この機会を活かし、イベントなどを開催し、「コシヒカリのふるさと」として本県を県内外にアピールします。



本県は全国トップレベルの「健康・長寿県」

重要課題における主要施策

経済活性化					
重要課題	区分	事業名	予算額	備考	
(就職支援)	新	若者就職支援センター(ジョブカフェ)運営事業	3,007 万円	チャ	県民
(産力強化)	新	福井県産力強化事業・	260 万円	チャ	県民
	新	ふくい産学官共同研究推進総合事業	10,130 万円	チャ	県民
	新	開業特別支援資金貸付金	25,000 万円	チャ	県民
	新	地域助け合いビジネス起業化支援事業	263 万円	チャ	県民
	新	産業活性化支援資金貸付金(地域助け合いビジネス支援)	12,000 万円	チャ	
(人づくり)	新	県立大学ビジネススクール(短期課程)開設事業	250 万円	チャ	県民
	新	県立大学プレビジネススクール開講事業	100 万円	チャ	
(販路開拓)	新	東アジア海外事務所機能強化事業	1,373 万円	チャ	
(企業誘致)	新	企業誘致アタック500推進事業	300 万円	チャ	
	新	立地企業関係強化事業	100 万円	チャ	
		企業立地促進補助金	91,520 万円		
		誘致企業支援補助金	6,821 万円	電源	
(農林水産業)	新	村落広域営農支援事業	9,200 万円	チャ	

	新	米政策改革円滑推進事業	7,150万円	チャ	県民
	新	高収益園芸品目緊急育成事業	3,700万円	チャ	
	拡	いきいき女性・熟年農業者活動支援事業	1,530万円	チャ	
	新	鳥獣害のない里づくり推進事業	6,590万円	県民	
	拡	がんばる海業(うみぎょう)支援事業	703万円	チャ	県民

県民生活の安全・安心

重要課題	区分	事業名	予算額	備考	
(有事への対応)	新	福井県県民保護計画(仮称)策定事業	2,318万円	県民	
(治安の回復)	新	安心で明るい子どもの道整備事業	30,000万円		
	新	安全・安心まちづくり地域実践活動支援事業	1,165万円	県民	
	拡	臨時交番相談員配置事業	3,962万円	県民	

きめこまかな福祉対策

重要課題	区分	事業名	予算額	備考	
(きめこまかな子育て支援)	新	「母親手作り子育て情報誌」作成事業	314万円	チャ	県民 電源
		子育てにやさしいまちづくり推進事業	1,473万円		
	新	特定保育事業	477万円		
	新	すみずみ子育てサポート事業	860万円	チャ	県民 電源
	新	病児デイケア促進事業	2,056万円	チャ	電源
	新	不妊治療費助成事業	1,004万円	県民	
(障害者施策の充実)	新	障害児夏休み等生活支援事業	243万円	電源	
	新	障害者自立活動促進事業	165万円		
		知的障害者グループホーム支援事業	2,813万円	電源	
	新	横断歩道ユニバーサル・デザイン化事業	600万円	県民	
(NPO等との協働による地域福祉の充実)	新	地域共生型デイサービス支援事業	2,000万円	チャ	県民 電源
	新	いきいき支え合い地域づくり事業	550万円	県民	
		老人福祉施設整備事業補助金	49,144万円		
	新	介護サービス第三者評価モデル事業	683万円	チャ	
		こども家族館(仮称)設計準備事業	310万円		

教育の充実

重要課題	区分	事業名	予算額	備考	
(高校生の学力向上)	新	高等学校学力向上教員配置事業	8,513万円		
	拡	中高一貫教育推進教員配置事業	5,675万円		
(30人学級編成の導入等)	新	元気福井っ子笑顔プラン事業	32,632万円		
	新	ボランティアによる低学年学校生活支援推進事業	6,411万円	県民	
(私学振興)	新	私立高等学校魅力アップ推進事業	30,000万円	チャ	県民
(青少年の健全育成)	新	ボランティア体験「ユースチャレンジャー隊」事業	1,050万円	県民	
(県立大学の充実)	新	県民参加による県立大学地域貢献研究推進事業	2,013万円		

ふくいブランドの創造

重要課題	区分	事業名	予算額	備考	
	新	地域ブランド創造活動推進事業	5,154万円	チャ	県民
	新	ふくいブランド県民大使推進事業	500万円	チャ	県民
	新	ふくいブランドイメージ発信事業	860万円	チャ	
	新	「健康長寿福井」調査・発信事業	1,086万円	県民	
	新	「ピジットふくい」観光客誘致拡大事業	5,000万円	チャ	県民
	新	「国際コメ年2004」コシヒカリのふるさと・福井全国発信事業	350万円		

その他の施策

県民とのパートナーシップ

重要課題	区分	事業名	予算額	備考		
(NPO等民間団体との協働による事業)	新	すみずみ子育てサポート事業	860万円	チャ	県民	電源
	新	障害児夏休み等生活支援事業	243万円	電源		
	新	地域をつなぐ河川環境づくり推進事業	2,396万円	県民		

電源三法交付金などを活用した事業

重要課題	区分	事業名	予算額	備考		
	新	「母親手作り子育て情報誌」作成事業	314万円	チャ	県民	電源
	新	病児デイケア促進事業	2,056万円	チャ	電源	
	拡	県立学校リフレッシュ事業	122,299万円	電源		

政策形成過程からの県民参加

重要課題	区分	事業名	予算額	備考		
(予算編成過程への県民参加)	新	開業特別支援資金貸付金	25,000万円	チャ	県民	
	新	私立高等学校魅力アップ推進事業	30,000万円	チャ	県民	
(福井女性会議)	新	不妊治療費助成事業	1,004万円	県民		
(座ぶとん集会)	新	鳥獣害のない里づくり推進事業	6,590万円	県民		

その他

重要課題	区分	事業名	予算額	備考		
	新	食べ残しを減らす社会づくり推進事業	275万円			

注) 予算額は、千円単位で四捨五入して万円表示にしています。

注) 区分欄

- 新** … 新規事業
- 新** … 再掲事業
- 拡** … 事業内容を拡充した事業

注) 備考欄

- チャ** … 「挑戦(チャレンジ)ふくい」を具体化するための事業
- 県民** … 県民の皆さんに予算編成過程に参加していただいた事業
- 電源** … 本県の提案に基づき使途が弾力化された電源交付金・補助金を有効に活用して実施する事業

